

ごあいさつ

部長 原 雅喜

柔らかな日差しに温かなぬくもりを感じる今日、私たちのコンサートにおいて下さり、ほんとうにありがとうございます。この春のひとときをお客様と共に過ごせることを、部員一同心より感謝しています。

今年度の我孫子中学校吹奏楽部は飛躍の年となりました。部員数は70名を超え、大所帯のバンドへと成長しました。また、「ふれあい夏まつり」や秋の市民まつり、そして学校行事での演奏など、去年にもまさる演奏機会を与えていただくことができました。そして、夏休みには演奏技術向上とともに新たな刺激を受けることを目的として千葉県吹奏楽コンクールに出場し、例年の小編成部門ではなく、大編成のA部門に挑戦しました。結果は銅賞でしたが、これからの私たちにとって勉強になることをたくさん吸収してきました。何より千葉県文化会館というすばらしいホールで私たちの「スペイン狂詩曲」が演奏できて、とても気持ちよく帰ってきたことが忘れられません。秋から冬にかけては、天王台・我孫子地区の地味行事に呼んでいただき、路上や公園で演奏することが恒例になりました。老若男女さまざまのお客様が、まわりをグルリと取り囲んで、私たちの息づかいや演奏上の目配せなどまで感じ取りながら熱心に聴いて下さいました。私たちのポップスやラテンを体中で受けとめて、年輩の方が揺れながら手拍子して下さいたり、小さなお子さんがその場でダンスを踊ってくれたり、とにかく楽しくて、このお客様の前で演奏のごまかしはきかないなあ…と、あらためて練習に気持ちを入れ直したものでした。

こうした1年間の活動をふりかえると、たくさんの人々に支えられて私たちのバンドの現在があるということを痛感します。だから、音楽をつくる私たちには常に大きな責任がともなうのだということを実感しています。

この1年の我孫子中バンドを聴いて下さったお客様、私たちの音楽する心をずっと支え続けて下さったすべての人々への感謝の気持ちをサウンドにこめて、皆さまにお届けできれば幸せに思います。

2006.3.26

プログラムノート

「メロ・ウイドウ・セレクション」(レハール、鈴木英史編)

今年の開幕曲に選びました。昨日、市民会館で33名の小学生とご一緒しました。総勢85名の大編成で演奏した「メロウイドウ」を小学生がいつまでも忘れずにいてくれたら嬉しいです。次から次へとやってくるメロディとハーモニーのなんときれいなことでしょう。でも、オヘレッタをDVDで見えたら、貴族の皆さんの恋愛の忙しさに、ちょっぴりあきれてしまいました。

クラリネット・コンチェルティーノ(CMウェバー)

「僕がこの曲に出会ったのは高校2年の秋、ザビーネ・マイヤーの演奏でその美しい旋律、そして音色にいつか心を奪われました。同時に一人のクラリネット奏者としてこの曲に携わりたいと強く感じました。今日は皆さんにもこの感動を味わっていただけるように精一杯演奏します」。クラリネット独奏・石井一成先輩(02卒)から皆さまへのメッセージでした。一成先輩はいつかこの曲と同じような心奪われる女性に出会うのでしょうか！

スペイン狂詩曲より「ハバナ」 「フェリア」(Mラヴェル)

この1年間演奏し続けてきた今年の我孫子中バンドメインクラシックです。最初はまったくどうなってるのか構造がさっぱりわからなかったのですが、ハバナの不思議な魅力、イングリッシュホルン 大森久美子 とクラリネット 原 雅喜 の吹けけるい旋律と不気味な雰囲気。そして全身の血液が沸えたぎるようなラストのエネルギー。もうこの曲の虜になった部員ばかりです。ああ、スペインに行ってみたいなあ！

オズティ・オズラダ(レイン&マッカートニー)

我孫子中バンド野外コンサートはいつもこの曲から始めます！「デズモンドは市場に店を持ち、モーリーはバンドの歌い手さ。彼は“君が好き”と言い、彼女は彼の手を取って言うのさ。人生は楽しい、楽しい人生は続くよ…」野外コンサートに来て下さったお客様ありがとうございました！

ラッパ味さの休日(ルロイ・アンダーソン)

原題は **Bugler's Holiday** ビューグラーとは一隊に軍隊などのラッパ隊のことです。いつも規律を鼓舞するラッパ隊たちが、今日はお休みで大喜び！といった感じでしょうか。誰もがおなじみの名曲を皆さまにお聴かせするので、コルネットセクションの 鎌木修平 はガチガチに緊張していますが 座間麻美、古谷雅利隆 が中心にとしと構えて、さあ演奏開始！

もののけ姫(久石 譲 小島聖美編)

古き時代の日本。森を拓こうとする人間と、森を守ろうとする獣、そして神との戦い。カチーマの宮崎アニメ。ソプラノシンガー 駒形亜衣菜 と 高橋 愛 が、花菱美 のソプラノサクソとともに切なく歌いあげます。

チャタヌガ・チュー・チュー(ハリー・ウォレン 岩井直樹編)

ズバリ、アメリカ版「汽車ぽっぽ」です。「イン・ザ・ムード」や「ムーンライト・セレナーデ」を吹いてから、スウィングが大好きになった私たちですが、汽車はスウィングでは走れませんよね。あれあれ？ 走り出した汽車の中から、1940年代風の若者がマイクを持って歌い出しましたよ！スナップリーダー 高橋真直 の姿も見えます…。

Sing Sing Sing (レイ・チャップマン 岩井直樹編)

ベニー・グッドマンのクラリネットを 原 雅喜 が、ハリー・ジェームスのトランペットを 座間麻美 が、そしてジーン・クルーパーのドラムを本校ギター音楽部の新人・大森康之くんがそれぞれ挑戦します。ギタ音部は私たちにとって心強い音楽仲間。体育祭アトラクション「ひょっこりひょうたん島」のボーカルはバブフルな 陣野 優 さんに歌っていただきました。これからいろいろな音楽仲間と積極的に連携していきます。

ハナミスキ(マシコタツロウ 山根佑和子編)

「一緒にわたるにはきささと船が沈んじゃう どうぞゆきなさい お先にゆきなさい」「僕の我慢がいつか実を結び 果てない波がちゃんと止まりますように」最初はメロのわからない詩でした。これが9.11 同時テロで人生を奪われた人の思いだったことを知って、私たちはこの歌のスケールにひびく。鈴木聖菜 が熱唱して 一青 窈 さんに近づきます。

キャラバン(Dエリントン 岩井直樹編)

デューク・エリントンのスタンダードナンバーです。アフロ・キューバン・ジャズというスタイル、つまりラテン風のジャズですね。アービング・ミルズはこんな歌詞をつけたそうです。「青い空の下、あなたは私とともにいる。私の夢はキャラバンの中 で かなった…」。児玉巴沙 のトロンボーンソロによるエキゾチックなメロディから始まります。

マンボ・ジャンボ(ベレス・ブラード 岩井直樹編)

いくつかラテンをレパートリーにしてきた我孫子中バンドが、初めて取り組んだマンボです。原題は **Que rico el Mmbó** スペイン語で、「マンボってなんてステキなの！」てな意味だと青井先生がおっしゃっていました。曲中みんなで立って大声で歌うところも、このとおりに叫んでいます。

ただあこがれを知る者のみが(PJチャイコフスキー Jカーナウ編)

今年のコンサートを締めくくるのは、チャイコフスキーの歌曲です。ゲーテの作ったこの詩は、長編小説「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」の登場人物ミニヨンが作中で歌います。「ああ！私を愛しわかってくれる人は遠いところにいるのです ただ憧れを知る人だけが 私の悩みをわかってくれるのです」 心惑う若き日の悩みを切々と歌うこの曲、演奏するたびに心にしみわたります。